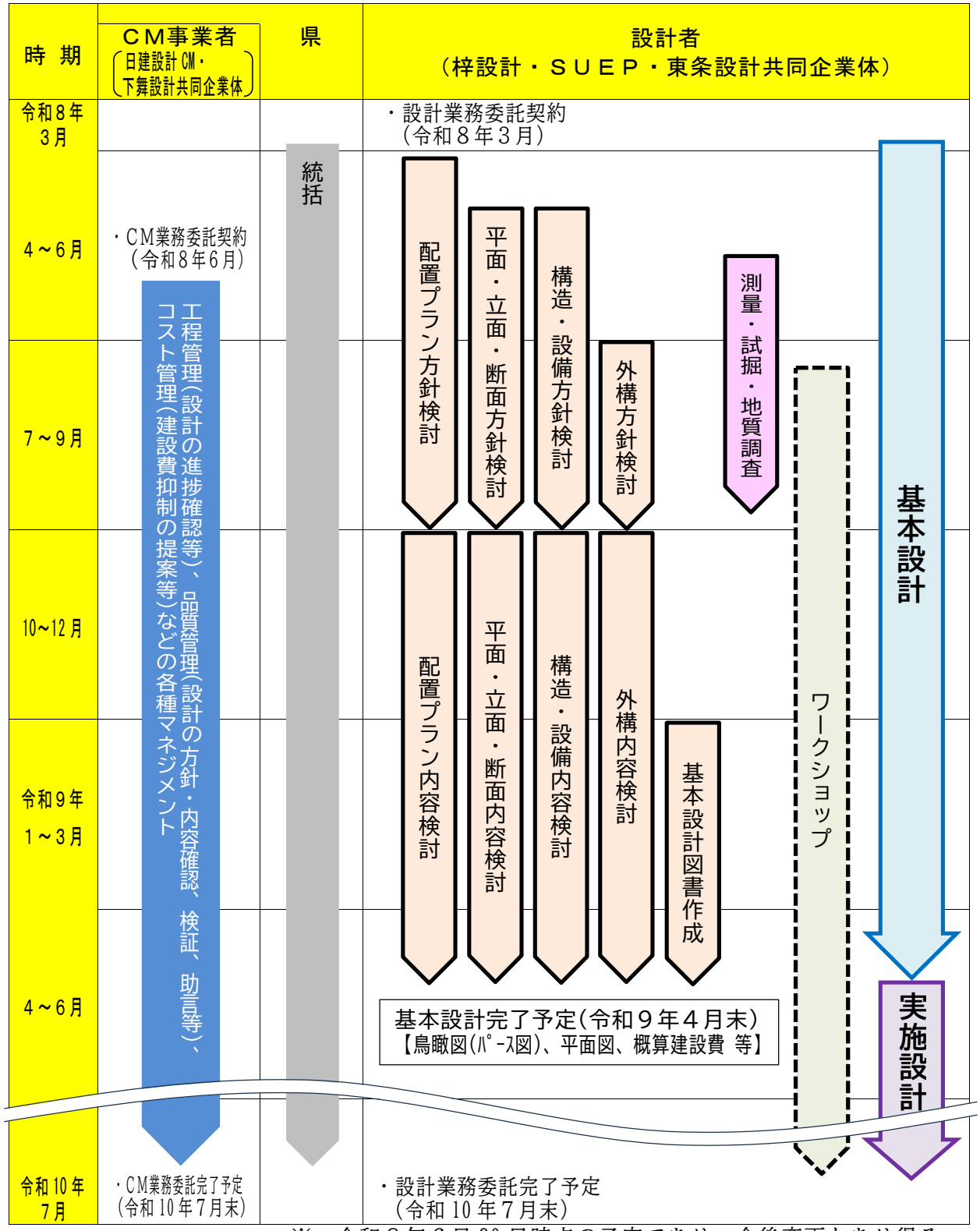
令和８年第２回定例会文教観光委員会　特定調査資料

資料３

令 和 ８ 年 ６ 月 30 日
ｽﾎﾟｰﾂ･ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ整備課

# スポーツ・コンベンションセンター設計業務スケジュール

・　設計業務（基本設計）スケジュールは以下のとおり。
・　設計者は、基本設計において建物の配置や構造、外観デザインなどの基本的な内容を整理し、実施設計において詳細図や具体的な仕様を作成する。
・　ＣＭ事業者は、設計者が作成する設計内容について、仕様書を十分踏まえた内容になっているかの検証等を実施するとともに、設計者に対し建設費を抑制するための積極的な提案を行うことなどにより、発注者である県を支援する。




※　令和８年６月30日時点の予定であり、今後変更もあり得る。

# 鹿児島県スポーツ・コンベンションセンター　１階ゾーニング（案）

令和８年第３回定例会
文教観光委員会
特定調査資料

【ゾーニングの考え方】

1　施設内

⑴　主要機能

○　中心市街地からのアクセスを考慮し、マイアミ通りに面した施設中央にメインエントランスを設ける。

○　マイアミ通り周辺からウォーターフロントパークへの動線を形成するため、東側中央にもエントランスを設ける。

○　施設を介して、中心市街地、ウォーターフロントパークとの連続性、回遊性が生み出されるよう、施設の中央に、多目的な利活用が可能なパッサージュ広場を計画する。

○　パッサージュ広場を中心に、以下の点を踏まえて、北側にメインアリーナを、南側にサブアリーナを計画する。

・　マイアミ通りから桜島への眺望の確保

・　コンサート等大規模イベントの退出時におけるマイアミ通り、朝日通りへの歩行者の経路の分散

○　弓道場は、一体的な大会の開催が可能となるよう、近的場と遠的場を隣接して計画する。

⑵　その他

○　多目的室とトレーニング室は、日常的な利用の促進を図るため、アクセスのしやすいマイアミ通り側に計画する。

○　事務室は、来場者の受付や施設の案内所となるため、施設の中央に計画する。

○　会議室・更衣室等の諸室は、各アリーナ、弓道場、武道場の周辺に計画する。

2　屋外

○　多目的広場は、中心市街地、ウォーターフロントパークとの一体的な活用が図られ、パッサージュ広場を介した回遊動線が形成されるよう、朝日通りに面した北西の角と、ウォーターフロントパークに面した南東の角の２か所に計画する。

○　施設駐車場は、日常的な利用が多いことが想定されるサブアリーナ、弓道場、トレーニング室等にアクセスしやすい南西の角に計画する。

○　施設駐車場の出入口は交通量の少ない南側に計画する。

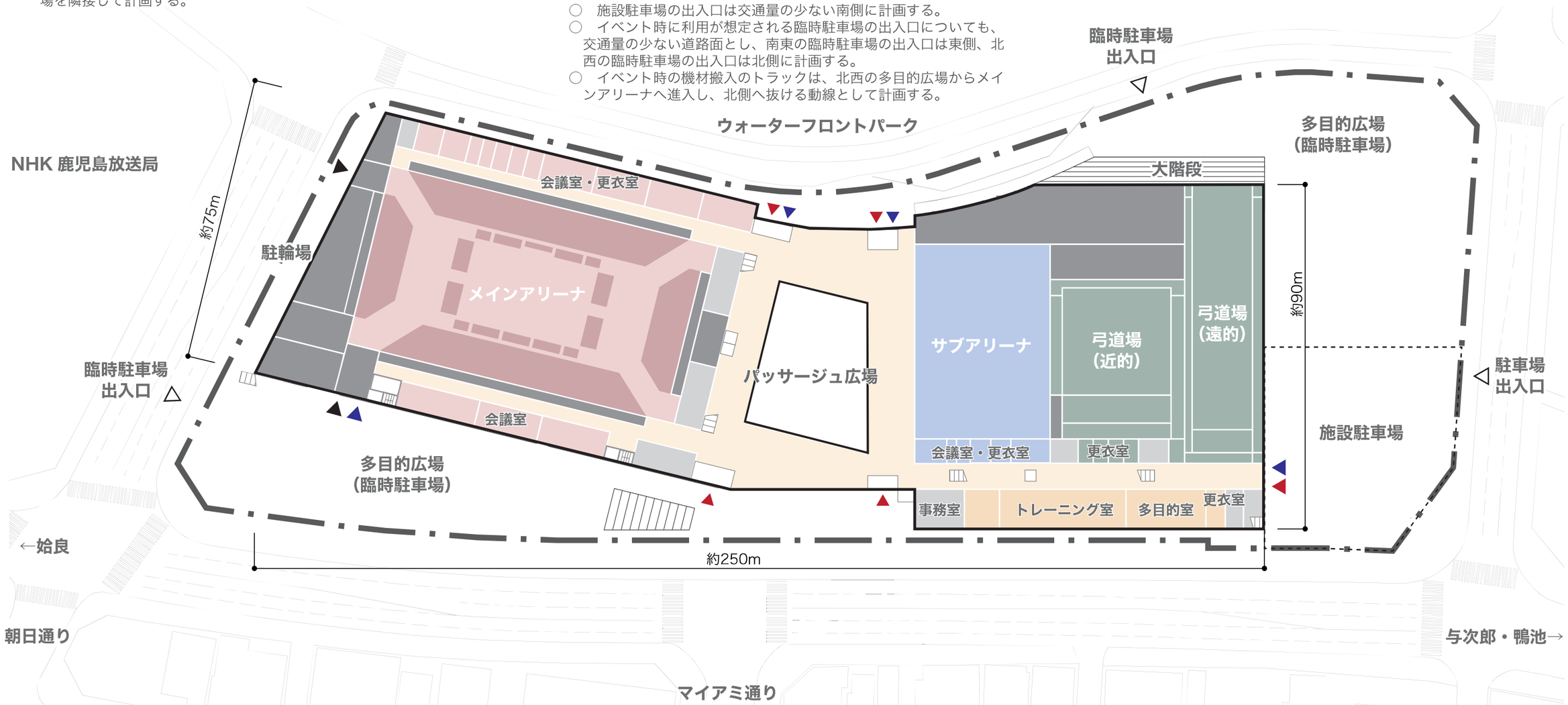
○　イベント時に利用が想定される臨時駐車場の出入口についても、交通量の少ない道路面とし、南東の臨時駐車場の出入口は東側、北西の臨時駐車場の出入口は北側に計画する。

○　イベント時の機材搬入のトラックは、北西の多目的広場からメインアリーナへ進入し、北側へ抜ける動線として計画する。

※あくまで現段階での検討内容です。今後の検討によって変更となる可能性があります。

凡例

- メインアリーナ , 更衣室 , 会議室
- メインアリーナ観客席
- サブアリーナ , 観客席 , 更衣室 , 会議室
- 弓道場 , 観客席 , 更衣室 , 会議室
- 武道場 , 観客席 , 更衣室 , 会議室
- トレーニング室、多目的室
- トイレ , その他諸室
- 機械室 , 器具庫 , 荷捌き室
- 通路・廊下
- 一般利用者出入口
- 関係者出入口
- 搬入車両出入口
- 駐車場出入口




1 階ゾーニング（案）　S=1/1000

S=1/1,000
0　5　10　25　50　100m

# 鹿児島県スポーツ・コンベンションセンター　2階・3階ゾーニング（案）

令和８年第３回定例会
文教観光委員会
特定調査資料

【ゾーニングの考え方】

⑴　主要機能

○　武道場はメインアリーナやサブアリーナの利用者の動線と交錯しないよう２階に計画する。

○　誰もが気軽に利用でき、桜島や錦江湾の眺望を楽しめるよう２階全体に桜島テラスを計画する。

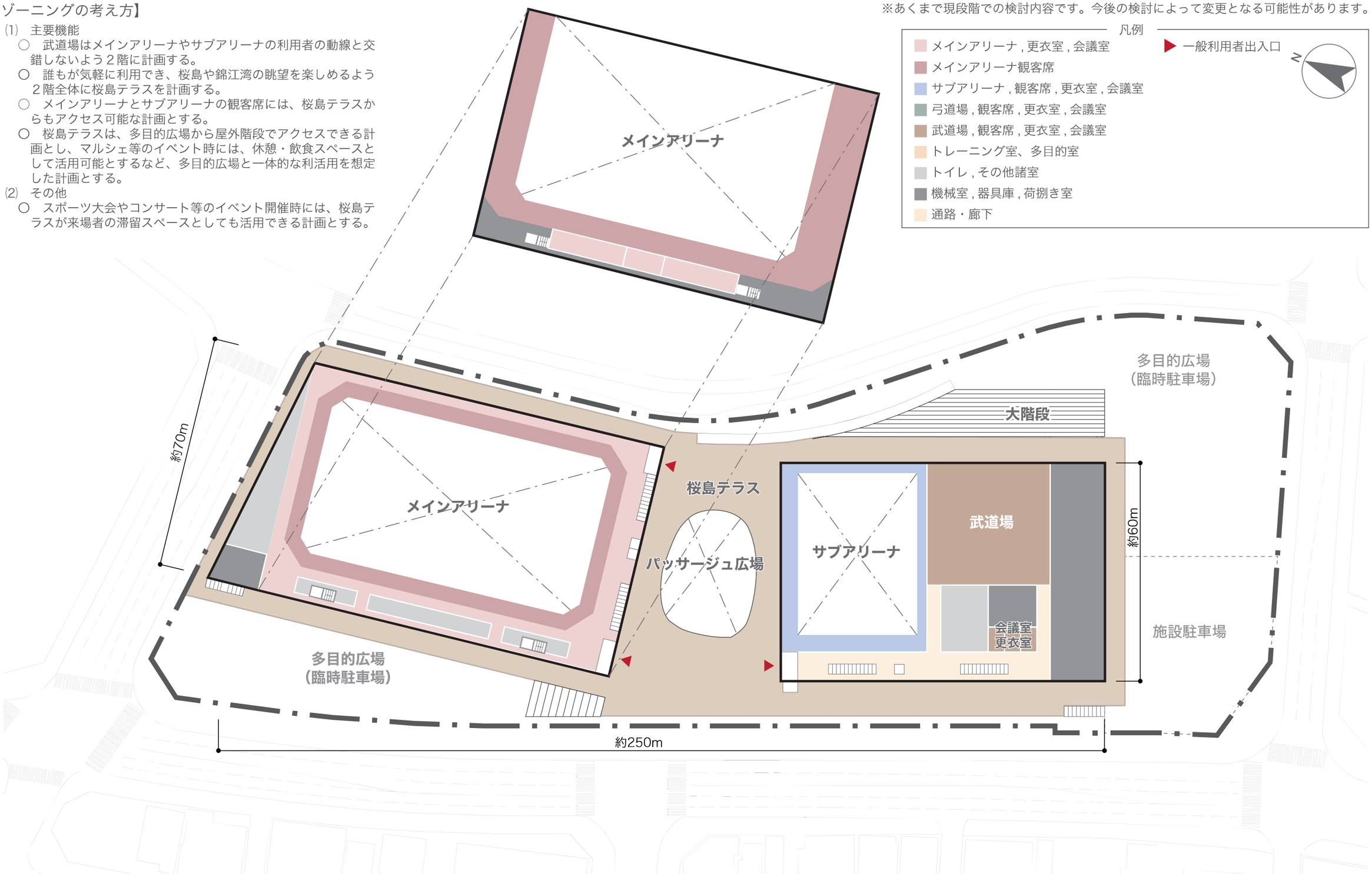
○　メインアリーナとサブアリーナの観客席には、桜島テラスからもアクセス可能な計画とする。

○　桜島テラスは、多目的広場から屋外階段でアクセスできる計画とし、マルシェ等のイベント時には、休憩・飲食スペースとして活用可能とするなど、多目的広場と一体的な利活用を想定した計画とする。

⑵　その他

○　スポーツ大会やコンサート等のイベント開催時には、桜島テラスが来場者の滞留スペースとしても活用できる計画とする。

※あくまで現段階での検討内容です。今後の検討によって変更となる可能性があります。




2 階・3 階ゾーニング（案）　S=1/1000

令 和 ８ 年 ６ 月 30 日
スポーツ・コンベンションセンター整備課

# スポーツ・コンベンションセンター「交通量調査事業」の結果概要について

## １　目的

スポーツ･コンベンションセンターの設計に当たっては､周辺の交通量等を基に、敷地への車両出入り口や来場者動線を決定するとともに、これを踏まえ、施設本体の配置や出入り口を決定する必要がある。併せて、同センターの整備が可能な限り交通混雑の要因とならないよう、交通対策についても実施する必要がある。

このため、設計に先立ち、現況の交通量調査及び将来の交通量予測を実施した。

## ２　現況の交通量

調 査 日：平日　令和７年 11 月 12 日（水）・休日　令和７年 11 月 9 日（日）
（国の道路交通センサスと同様､交通量の変動が少ないとされる 11 月に実施）

調査箇所：ドルフィンポート跡地周辺の交差点 10 箇所

調査結果：同センター整備地西側の臨港道路の交通量は約２万台/日

## ３　将来の交通量予測方法

国のマニュアル（※）等を参考に以下の方法で実施した。

- スポーツ・コンベンションセンター基本構想（以下、基本構想）で想定している最大規模のスポーツ大会及びコンサート等のイベント利用時の交通量を予測
- これらのイベント利用時におけるピーク時間帯の交通量を、現況の交通量に加えて将来の交通量を推計
- 基本構想におけるアクセス動線を主に利用し、周辺交差点の信号調整を仮定
- 交通への影響は､整備地周辺の交通量の多い交差点における､「交差点需要率」及び「交通容量比」を用いて評価

◆交差点需要率
単位時間内に交差点が信号で処理できる交通量に対し、実際に流入する交通量の比率
（基準値 0.9 を超えた場合に交通混雑が発生すると予測）

◆交通容量比
交差点への流入部の各車線の交通容量に対し、実際に流入する交通量の比率
（基準値 1.0 を超えた場合に交通混雑が発生すると予測）

※『大規模開発地区関連交通計画マニュアル（改訂版）』（国土交通省）
『平面交差の計画と設計基礎編－計画・設計・交通信号制御の手引き』（(一社) 交通工学研究所）

## ４　条件設定

### ⑴　利用状況の設定

スポーツ・コンベンションセンターが、下表の状況で利用される状況を設定

表：利用交通量の想定

| | スポーツ大会 | コンサート | 備考 |
|---|---|---|---|
| ピーク時間帯※ | 平日　入場時<br>7:30～8:30 | 休日　入場時<br>16:00～17:00 | ※：過去に開催されたスポーツ大会等の人流データを踏まえた設定 |
| ①最大来場者数（②県内割合※） | 3,000 人（100%） | 8,000 人（65%） | |
| ③自動車分担率 | 77.2% | 36.4% | 〔スポーツ大会〕部活動指導者向けアンケート調査から（R2.1 月県実施）<br>〔コンサート〕中心市街地来街者の回遊性・満足度調査から（R7.3 月鹿児島市） |
| ④１台当たりの乗車人員 | 2.5 人／台 | 1.6 人／台 | 〔スポーツ大会〕他県事例等を参考<br>〔コンサート〕全国都市交通特性調査から（国土交通省） |
| ⑤利用交通量 | 926 台 | 1,183 台 | ⑤＝①×②×③/④ |
| 動線計画 | 基本構想におけるアクセス動線を主に利用し、周辺交差点の信号調整を仮定 | | |

### ⑵　駐車場の仮定

同センターに近い、以下の駐車場の整備・活用を仮定※１

- 県営第３駐車場（バス駐車場 50 台※２）
- 県営第４・第６駐車場（一般駐車場 500 台※２）

※１：　上記駐車場の設定は、あくまで今回の予測に当たっての調査上の仮定

※２：　基本構想において住吉町 15 番街区に整備することとしていたバス駐車場 50 台、一般駐車場 500 台の代替として、同センターに近い上記駐車場を仮定

※　：　なお、周囲の民間駐車場の利用状況等を踏まえつつ、他の県営駐車場の整備・活用なども今後検討

## ５　予測結果

### ⑴　前提

本予測は同センターの周辺に最も交通が集中しやすい条件を仮定した上での結果であり、今後、他の予測条件による予測との比較検討を行い、最適な交通対策を検討することから、必ずしも本仮定の条件で、同センターの駐車場が整備されるものではない。

### ⑵　予測結果

#### ①　スポーツ大会

交差点需要率については、0.9 を超える交差点はなかった（0.372～0.636）。

交通容量比については、経路分散や周辺信号機の調整を行った上で、ボサド桟橋横交差点において南側からの右折車線が 1.0 を超え（1.852）、交通混雑が予測された。

#### ②　コンサート

交差点需要率については、0.9 を超える交差点はなかった（0.345～0.837）。

交通容量比については、経路分散や周辺信号機の調整を行った上で、1.0 を超える車線はなかった。

また、歩行者については、約 8,000 人規模の来場者のうち約 4,900 人が市電や周辺駐車場等から来場することが予測された。

図：交通容量比が 1.0 以上となる車線（スポーツ大会のみ）

※　同センターの周辺に最も交通が集中しやすい条件で予測
※　県営駐車場の活用は、今回の予測に当たっての調査上の仮定

## ６　今後の検討事項

⑴　本結果は、同センターの周辺に最も交通が集中しやすい条件で予測したことから、今後、他の予測条件による交通量予測との比較検討を行い、基本構想を踏まえ、以下の観点から、同センターの整備が可能な限り交通混雑の要因とならないよう引き続き設計者や関係部局等と連携し対策を検討する。

- 歩行者動線の確保
- 警備員や案内板の配置による歩行者の誘導
- 移動時間の分散や中心市街地への誘導
- 公共交通機関の利用促進やシャトルバスの運行
- 施設や駐車場の出入口と動線の工夫による混雑抑制　等

⑵　今回の予測は調査上の仮定であることから、スポーツ・コンベンションセンターの駐車場は、今回の調査結果や周囲の民間駐車場の利用状況等を踏まえつつ、県営駐車場の整備・活用など今後検討する。